

賢材研究会 2024年度活動報告(案)

1. 第一回学術技術交流会

- ・日時; 2024年6月11日
- ・場所; デンカ(株)大牟田工場
- ・参加者; 18名
- ・内容; デンカ(株)大牟田工場の紹介・説明を受け、工場(LED用蛍光体の製造工場など)を見学した。
その後、会場提供者のデンカ(株)ほか会員より4件講演いただき、意見交換の場を設けた。

(講演)

- (1)「LED用蛍光体の基礎と開発内容」小林慶太(デンカ(株)大牟田工場セラミック研究GL)
- (2)「ミリ波照射によるセラミックスの低温焼結と物質移動の促進」岸本 昭(岡山大学学術研究院教授)
- (3)「未利用バイオマス資源の前処理技術による高効率メタン化システムの開発・実証」岡田 治(株ルネッサンス・エネルギー・リサーチ社長)
- (4) 経歴紹介 浜口真佐樹(株環境セラステクノ)

2. 第二回学術技術交流会

- ・日時; 2024年10月23日
- ・場所; (株)浅沼組名古屋支店
- ・参加者; 21名
- ・内容; 浅沼組は関西を地盤に全国に事業展開しているゼネコンで「土や木など自然素材の活用や廃材のアップサイクル、地球にやさしい建材の活用、既存建物の良さを活かして環境にやさしいリノベーションの推進」を名古屋支店で形にしている。築30年の自社ビルを環境配慮型ヘリニューアルしており、見学した。
学術技術交流会では浅沼組と名古屋支店の紹介と説明を受けた後、支店内を見学した。
その後、休憩を挟んで話題提供3件と意見交換の場を設けた。

(講演)

- (1)「清水建設社の新しいイノベーション拠点 NOVARE」岡田敬一(清水建設社)
- (2)「コンクリート 3D プリンティングの国内外の現状」西脇智哉(東北大学)
- (3)「一つの地球で暮らすということ！」石田秀輝(地球村研究室)

3. 第三回学術技術交流会

- ・日時; 2024年11月29日
- ・場所; 山梨大学、水素・燃料電池ナノ材料研究センター
- ・参加者; 17名
- ・内容; 同研究センターは2008年4月に設立され、水素・燃料電池の実装技術の開発を推進している。燃料電池の反応、劣化メカニズムに関わる知見ならびにナノテクノロジー等の先端技術の融合により、触媒・電解質膜 MEA 等の燃料電池の材料研究などを実施し、高性能・高信頼性・低コストを同時に実現可能な基礎技術の確立を目指している。交流会では同研究センターの説明を受け、センター内を見学した。
その後、講演3件、研究会側から2件話題提供し、意見交換の場を設けた。

(講演)

- (1)「水素・燃料電池を取り巻く状況について」飯山明裕(研究センター長)
- (2)「山梨大学における水素・燃料電池の研究開発状況」飯山明裕(研究センター長)
- (3)「地域企業の水素・燃料電池産業参入支援活動」岡嘉弘(研究センター 客員教授)
- (4)「プロトン伝導セラミック燃料電池の開発状況と課題」水谷安伸(産業技術総合研究所/中部センター)
- (5)「半導体のデータ解析などで最も活用されている BI ツール『Spotfire』のご紹介と他研究分野の応用事例」坪井眞三(株カズテクニカ)

4. 総会および第四回学術技術交流会

- ・日時; 2025年3月12日
- ・場所; 東京製綱繊維ロープ(株)
- ・参加者; 18名(うちリモート2名)
- ・内容; 賢材研究会の法人会員の東京製綱社の関連会社の東京製綱繊維ロープ社で総会を開催し、学術技術交流会で会社の説明を受け、工場を見学した。

5. 会員入退会

- 法人入会; 住友林業(株)
- 個人入会; なし
- 法人退会・個人退会; なし

7. そのほか

- ・幹事会; 5月10日、9月20日、10月23日(学術技術交流会@浅沼組名古屋支店)、12月12日、1月16日、3月12日(総会@東京製綱繊維ロープ社) 計6回(オンライン併用)
- 内容; 学術交流会の詳細検討・準備、会員入会・退会、会計予算進捗確認検討、来年度活動の検討ほか
- ・ホームページの作成と更新

以上